



Leverages
Medical Care

看護師実態レポート 2021年

～新型コロナウイルス感染症拡大の影響～

看護師実態レポート 2021

～新型コロナウイルス感染症拡大の影響～

趣旨

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった2021年。医療の最前線で働く看護師について実態を緊急調査。月間25万人以上が利用（※2020年4月時点）する看護業界に特化したサービス「看護のお仕事」が持つデータを元に、新型コロナウイルス感染症拡大前後の求人や給与の推移、看護師の労働環境やストレスについてまとめました。

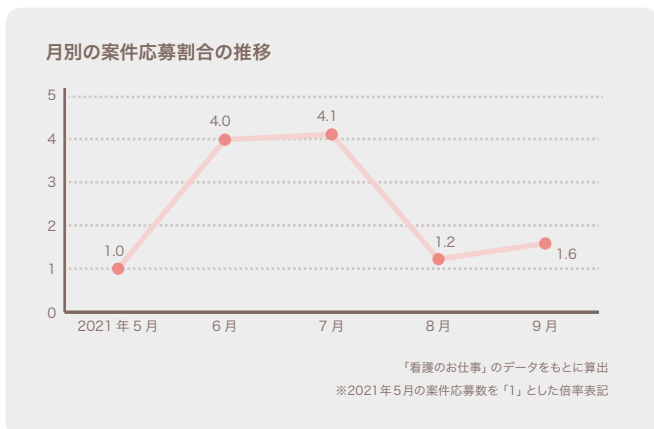
目次

1.	看護師の転職・就労状況におけるQ&A	2
	1-1. 求人推移		
	1-2. 時給・給与		
	1-3. ワクチン接種業務による報酬		
2.	新型コロナウイルス感染症拡大によるストレス調査	3
3.	看護師の労働環境に関する実態調査	5

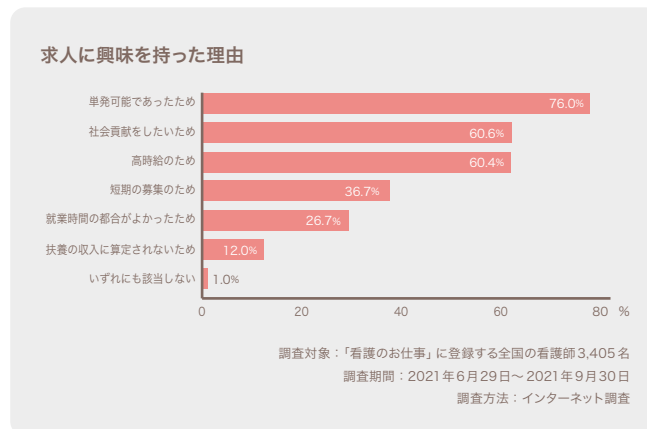
1. 看護師の転職・就労状況におけるQ&A

1-1. 求人推移

ワクチン接種業務関連の看護師の応募割合



看護師の転職理由



Q 派遣の看護師の時給があがっている案件エリア

- A 大規模接種会場や職域接種を運営する自治体や企業であればエリアは基本問いませんが、主に首都圏エリア、東海エリア、関西エリアがあがっています。

1-2. 時給・給与

Q 新型コロナウイルス感染症拡大前後での派遣の看護師の時給の比較、平均の時給は上がっているか

- A ワクチン業務や療養者へ携わらない通常業務の時給相場に変動はありません。

Q 新型コロナウイルス関連の求人で派遣の高時給求人はあるか

- A ワクチン接種業務以外では、基本的に高時給求人はありません。しかし一部感染者療養ホテルでの業務などでは通常時給に+1,000円程度の高時給求人が出ています。

1-3. ワクチン接種業務による報酬

Q 看護師の通常業務と職域接種などワクチン接種関連業務での報酬の違い

- A ワクチン業務に関わる看護師の派遣の時給単価は、通常業務の求人よりも、時給はやや高い傾向です。ほとんどの案件で通常単価に+1,000円（時給）となっています。

Q 自治体の報酬と企業の職域接種で、派遣の看護師の報酬に違いはあるか

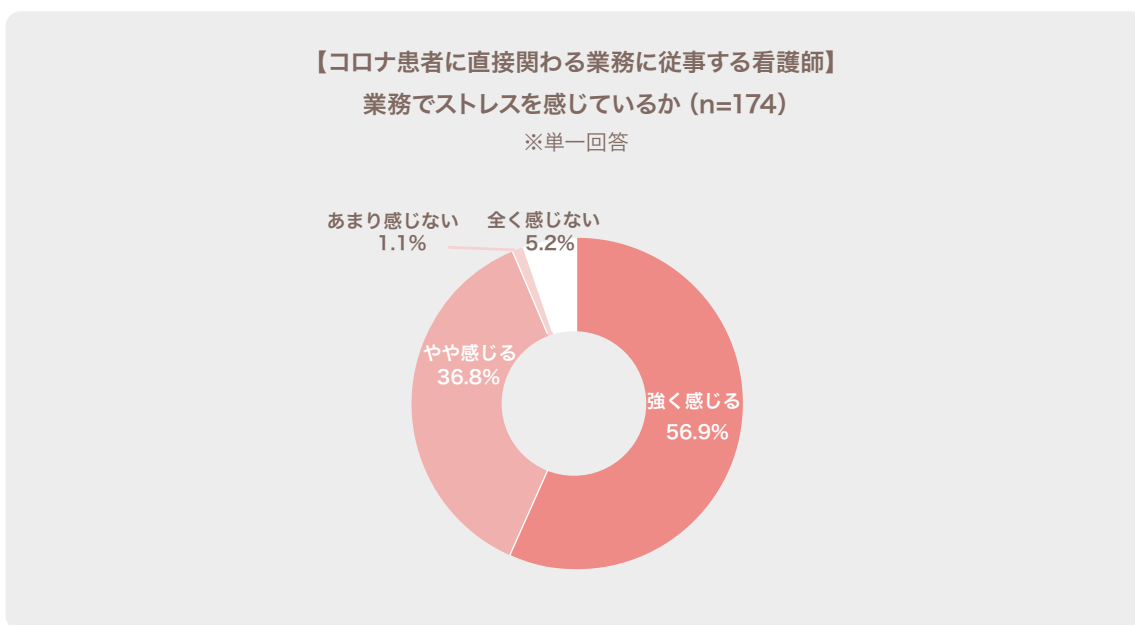
- A 看護師の報酬に違いはありません。

※数値は全て2021年10月21日時点の状況に関するものです。

2. 新型コロナウイルス感染症拡大によるストレス調査

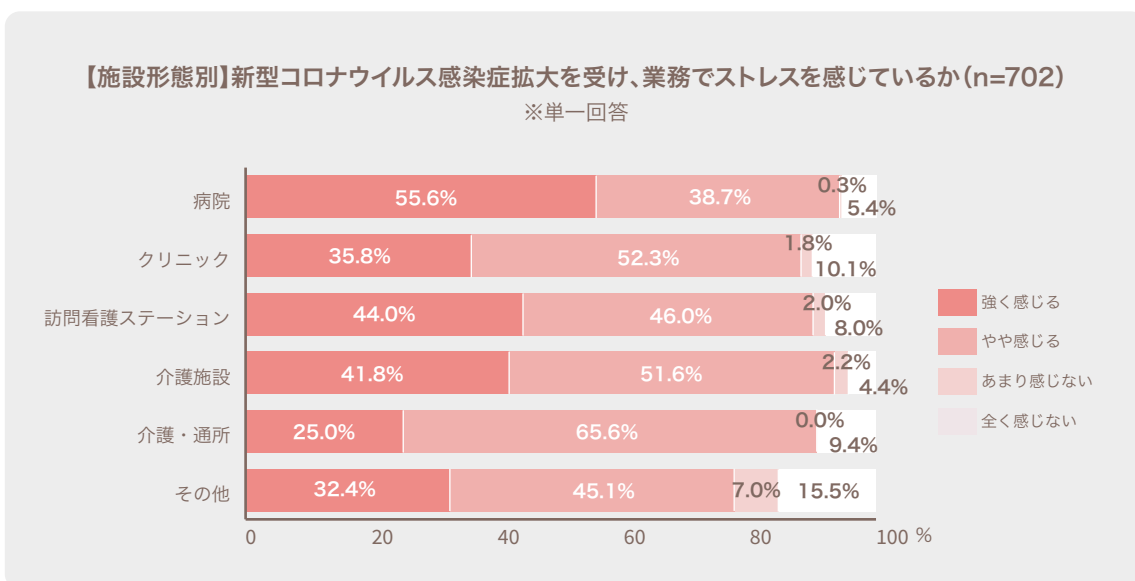
2-1. コロナ患者に直接関わる業務に従事する看護師の9割超がストレスを感じている

新型コロナウイルス感染症患者に直接関わる業務に従事する看護師の約9割（93.7%）が、感染拡大を受けてストレスを「強く感じる」または「やや感じる」と回答しています。



2-2. 施設形態別では病院の看護師が最も高く、約6割が強いストレス

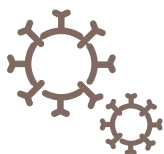
勤務先・施設形態別に見ると、ストレスを「強く感じる」「やや感じる」と回答した看護師の割合が最も高かったのが、病院の94.3%。「強く感じる」と答えた看護師が、約6割（55.6%）に上りました。



同感染症患者を受け入れ、対応に追われる傾向にある病院は強いストレスを感じている看護師の割合が最も高いことが判明。

2-3. コロナ患者に直接関わる業務に従事している看護師がストレスを感じている理由

感染の恐れ



- クラスター発生病院でのコロナ患者担当で、設備、資源が限られており、いつ感染するかわからない不安がある（40代 関東地方 <病院>回復期リハビリテーション 整形外科勤務）
- 防御しながら業務しているが、私達に安全の保証はない（20代 九州地方 <病院>急性期勤務）
- 妊婦でもコロナ患者を受け持たされる（30代 九州地方 <病院>急性期 整形外科勤務）
- 自分が感染するのは仕事柄仕方ないと思う。しかし高齢の家族にうつしてしまったらと考えるとかなり心配（30代 東北地方 クリニック 内科勤務）

業務量・内容の変化



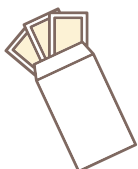
- ICUで普段から多忙の中、入院受け入れでのPPE（個人防護具）対応によりさらに忙しくなった（30代 関東地方 <病院>急性期 内科勤務）
- 回復リハビリ病棟が急速コロナ病棟へ。ただならぬ緊張感とこれまで感じたことのない不安を覚えながら、子どもと夫と約2週間離れ、官舎生活を送った。認知症で徘徊、異食、支離滅裂な言動の陽性患者を24時間、その場から離れず見ると医師から言われ、休憩は5～10分の1回のみで激務を行っていた。かなり濃厚な関わりになってしまうため、いつ感染してもおかしくない不安と悲しみに数日間泣きながら仕事をしていた（30代 東北地方 <病院>回復期リハビリテーション勤務）

防護服着用の大変さ



- 陰圧設備内での作業や防護服を長時間着用しての作業時には、息苦しさや閉塞感を感じる（40代 近畿地方 <病院>急性期勤務）
- ガウンなど防護服の配給がまだ薄く、1度着用したらなかなか脱げない。患者様の状態にもよるが、受け持ち1人で回すので大変。また、脱げないので水分もとれずトイレにも行けない。さらに防護服を長時間着ると、汗などでとても不快（20代 関東地方 <病院>急性期勤務）

給与



- コロナ患者を受け持ち自分が罹患するリスクを抱え、感染対策における業務は増しているが、賃金は変わらず、ボーナスは減少している（30代 中部地方 <病院>急性期勤務）
- コロナ流行後、病院は赤字経営らしく、危険手当等一切なし。ボーナス支払いもない。業務は格段に増えたのに人員・コスト削減のため一人で色々な業務をこなさなければならず、かなりのストレス（30代 関東地方 <病院>急性期勤務）

調査概要

調査対象：「看護のお仕事」に登録する全国の看護師920名

調査期間：2021年2月17日～2021年3月4日

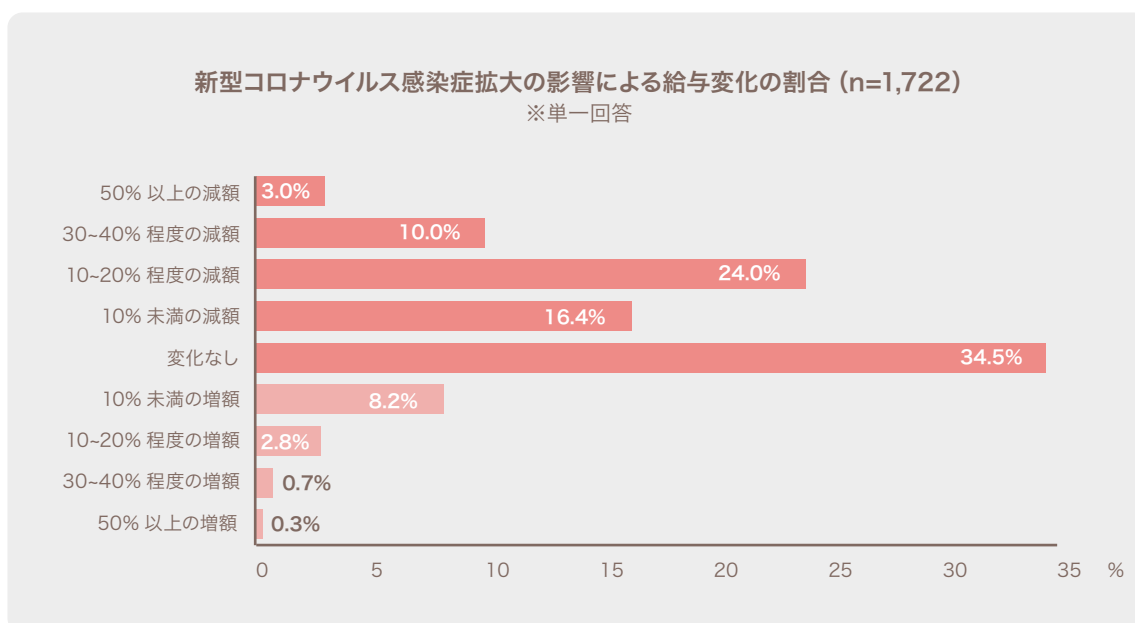
調査方法：インターネット調査

3. 看護師の労働環境に関する実態調査

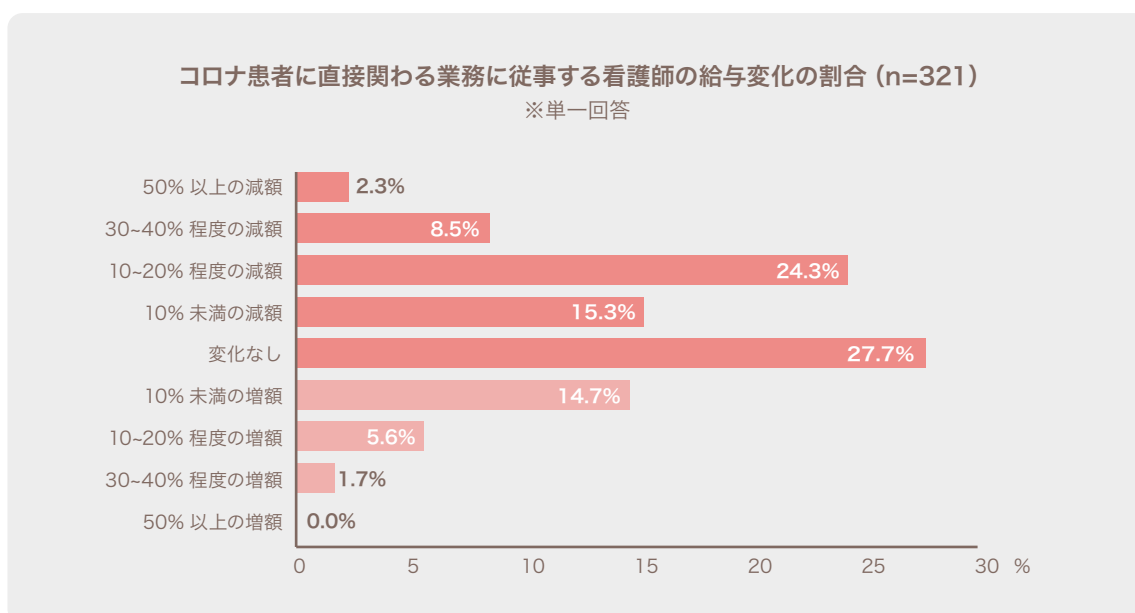
3-1. コロナ患者に直接関わる看護師の50%超が給与減

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、同感染症拡大前(2020年2月以前)と比べ給与(賞与を含む)に変化があったかについて、「10%～20%程度の減額」24.0%、続いて「10%未満の減額」16.4%、「30～40%程度の減額」10.0%、「50%以上の減額」も3.0%の結果に。給与を減らされた看護師の割合は全体で53.5%と、回答者の半数以上を占めました。

一方、「変化なし」は34.5%。同感染症拡大前と比べ給与が増えたと答えた割合は、「10%未満の増額」8.2%をはじめ、全体で1割程度(12.0%)にとどまりました。

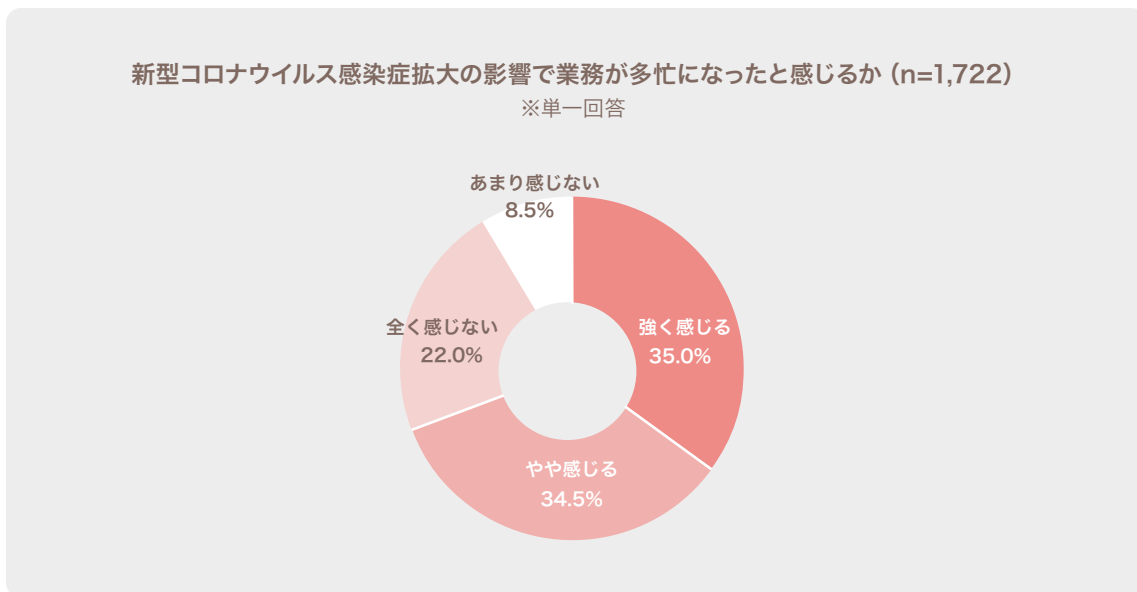


コロナ患者に直接関わる業務従事の有無で分けてみると、同業務に従事する看護師のうち24.3%が「10%～20%程度の減額」、15.3%が「10%未満の減額」、8.5%が「30～40%程度の減額」と回答。「50%以上の減額」も2.3%となり、最前線で新型コロナウイルスと闘う看護師たちの半数(計50.3%)が、給与減額の厳しい現実にさらされていることが明らかになりました。



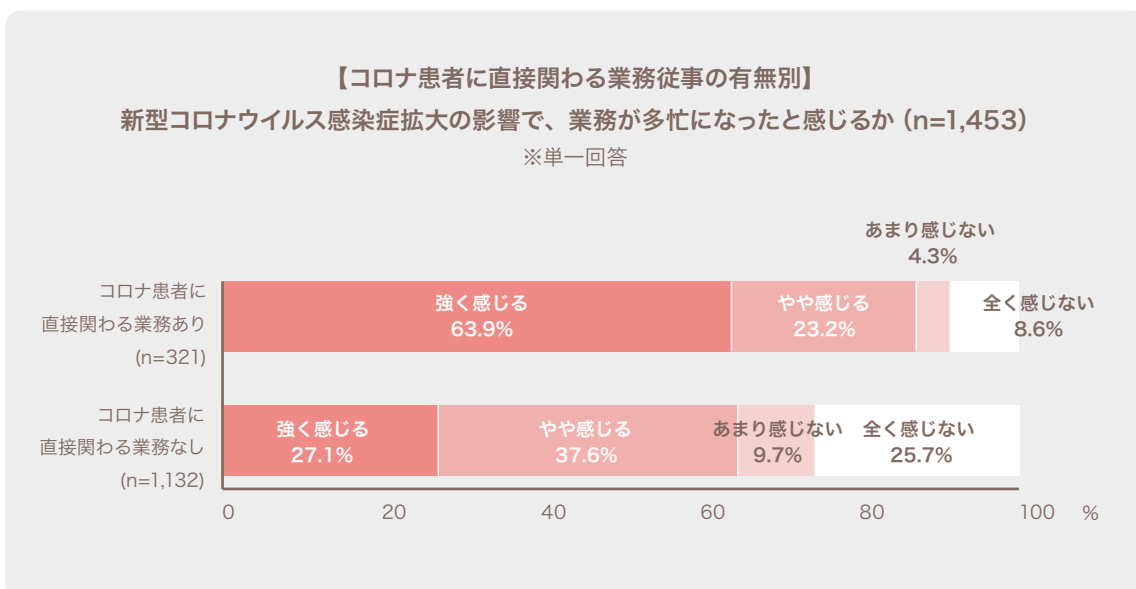
3-2. 新型コロナウイルスで業務が多忙になったと感じる看護師は約7割

新型コロナウイルス感染症拡大前(2020年2月以前)と比べ業務が多忙になったか、については「強く感じる」35.0%、「やや感じる」34.5%となり、合わせて約7割(69.5%)に。「あまり感じない」「全く感じない」は3割(計30.5%)にとどまりました。



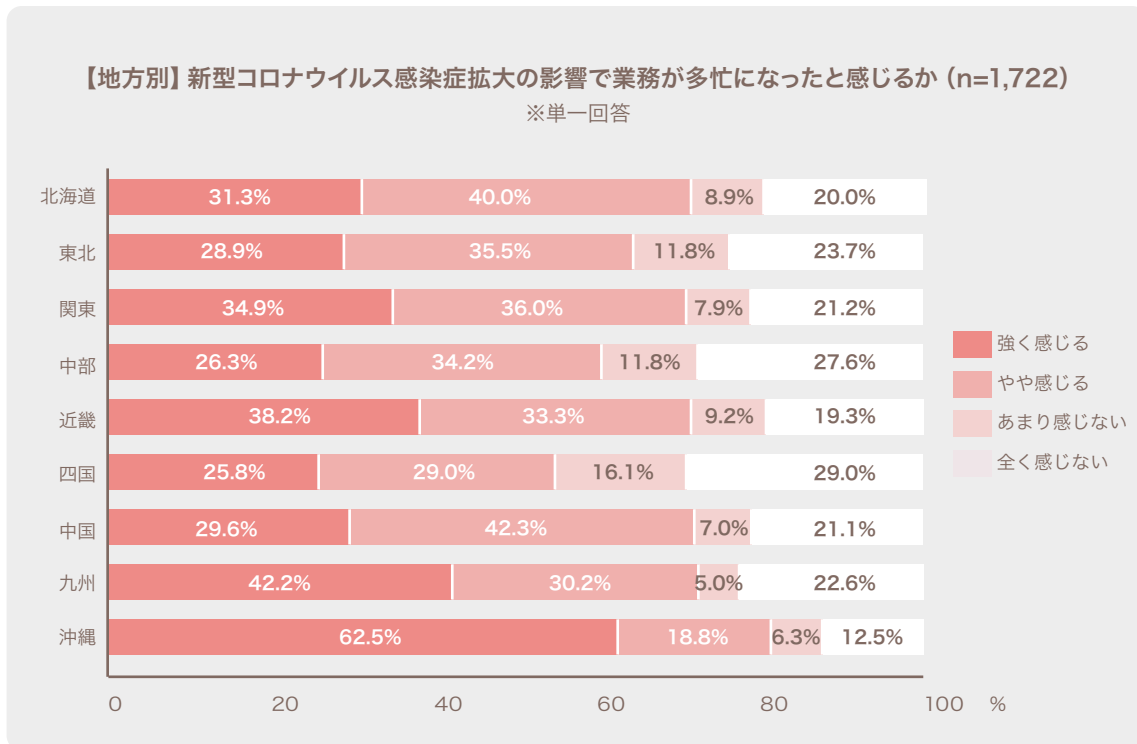
なお、コロナ患者に直接関わる業務に従事している看護師のうち、「強く感じる」が63.9%、「やや感じる」は23.2%となり、合わせて約9割(87.1%)を占めました。

一方、直接関わる業務に従事していない看護師についても、「強く感じる」(27.1%)「やや感じる」(37.6%)が合わせて6割(64.7%)の結果に。コロナ患者に直接関わる業務への従事有無に関わらず、高い割合の看護師が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、業務が多忙になったと感じていることがわかりました。



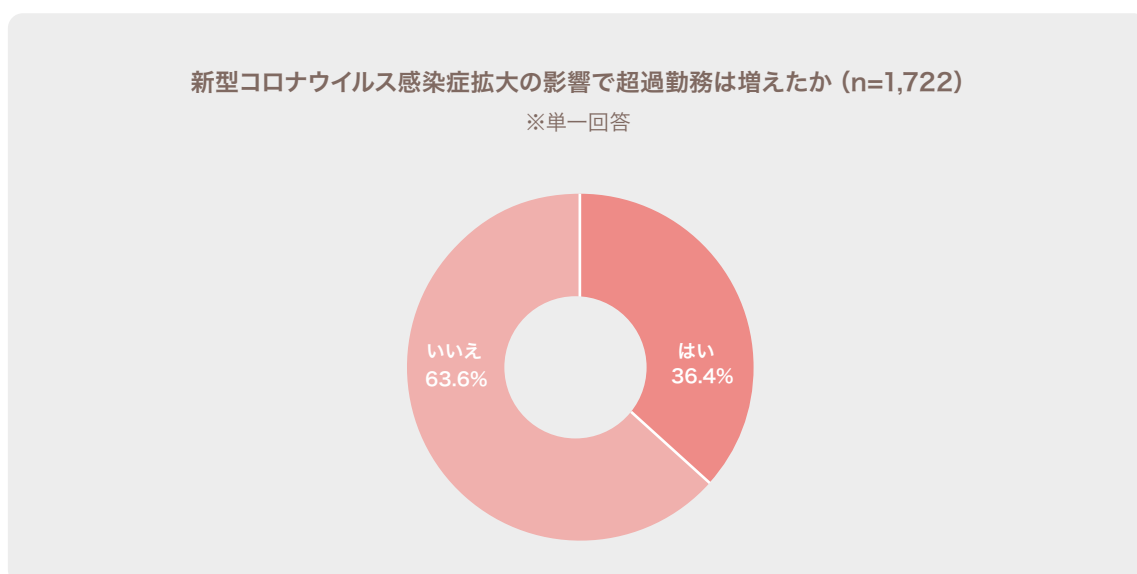
3-3. 感染者が少ない地方で働く看護師も、半数以上が新型コロナウイルスの影響で業務多忙に

地方別に見ると、感染者数が多い東京都を含む関東地方では「強く感じる」(34.9%)と「やや感じる」(36.0%)で計7割(70.9%)を占めたほか、同割合は感染者数が少ないとされる東北地方でも6割(64.5%)、四国地方でも5割(54.8%)を上回りました。

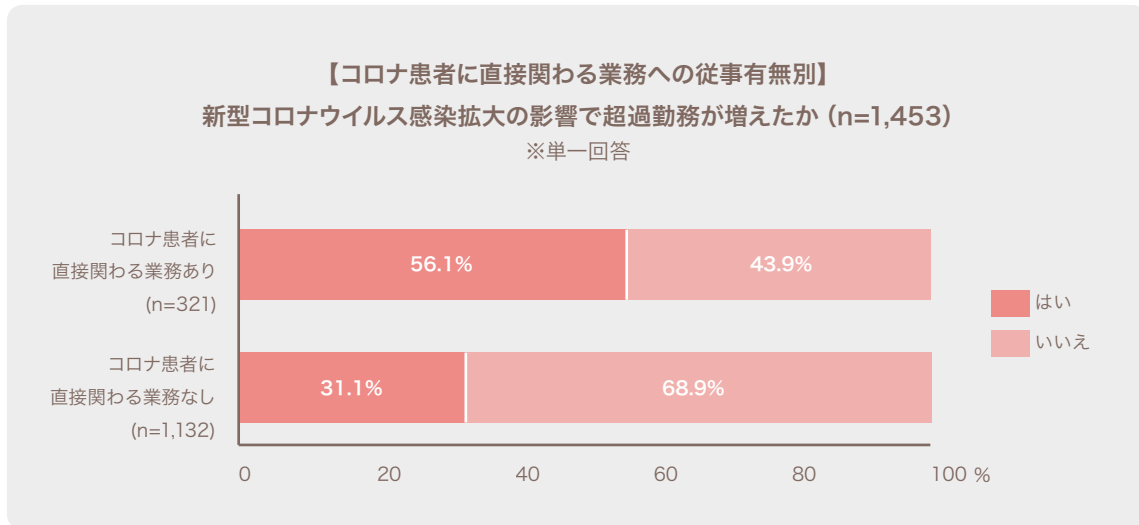


3-4. コロナ患者に直接関わる看護師の6割、直接関わらない看護師も3割が超過勤務増

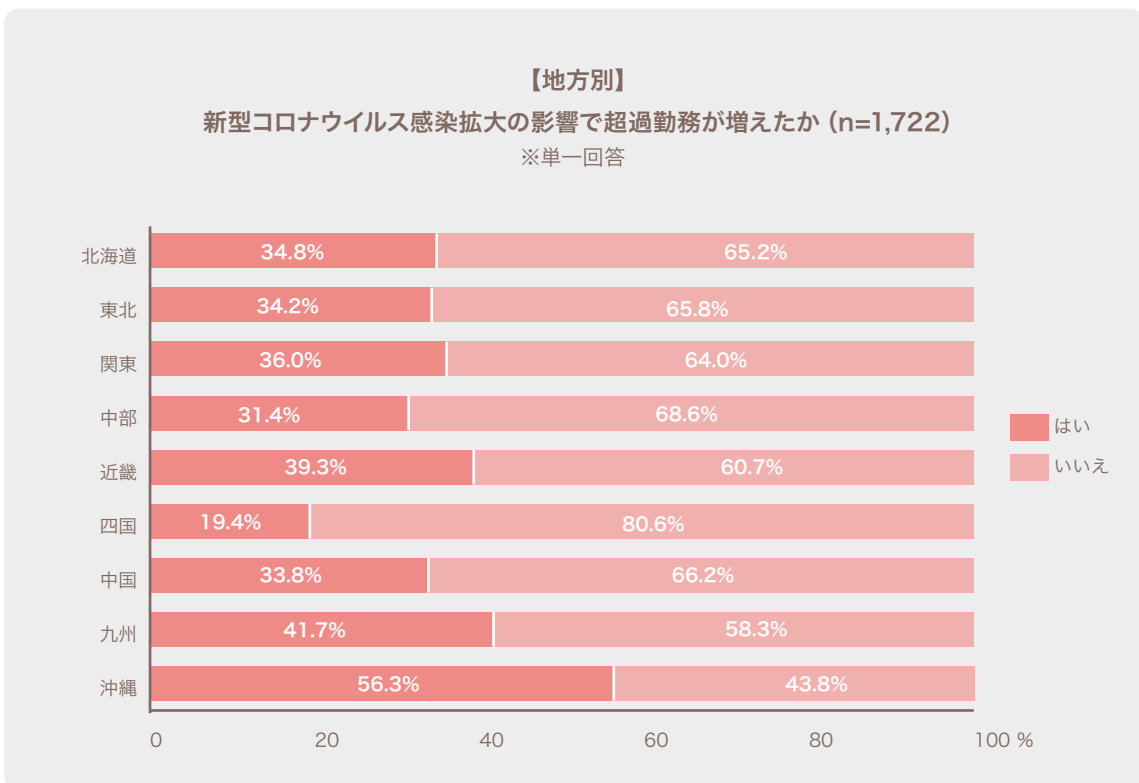
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で(同感染症拡大前の2020年2月以前と比べ)、実際に超過勤務が増えたと答えた看護師は、全体の4割近く(36.4%)に。



コロナ患者に直接関わる業務に従事する看護師のうち56.1%、同業務に従事しない看護師も31.1%が、同感染症拡大前より超過勤務が増えたと回答しました。



地方別に見ると、超過勤務が増えたと感じる割合が高かったのは沖縄で56.3%。次に九州の41.7%、近畿の39.3%と続き、関東は36.0%に上りました。東北地方では34.2%、最も割合が低かった四国でも19.4%となり、全国的に看護師の超過勤務増加の動きが広がっていることがわかりました。



調査概要

調査対象：「看護のお仕事」に登録する全国の看護師1,722名
 調査期間：2021年1月26日～2021年2月15日
 調査方法：インターネット調査

看護師実態レポート 2021

～新型コロナウイルス感染症拡大の影響～

看護のお仕事について



看護のお仕事(<https://kango-oshigoto.jp>)はレバレッジズメディカルケア株式会社が運営する、看護業界に特化した人材紹介・派遣サービスです。「職場のリアルがわかる転職」をモットーに、事業所訪問を通して収集した病院情報の提供や面接対策など手厚いフォロー体制で全国の看護師の転職を強力にサポート。看護師の長期就業を目指し、入職前後のフォローを担当する専任チームを設置しています。看護紹介は47都道府県、看護派遣は1都2府11県に対応し、月間ユーザー数は25万人（※2020年4月時点）にのびます。

運営会社情報

会社名	レバレッジズメディカルケア株式会社
本社	東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号
設立	2017年10月6日
資本金	5,000万円
代表取締役	岩槻 知秀
グループ企業	レバレッジズ株式会社 レバテック株式会社 レバレッジズオフィスサポート株式会社 レバレッジズ M&A アドバイザリー株式会社 Leverages Career Vietnam Co.,Ltd. Leverages Career India Pvt.Ltd. Leverages Career Mexico S.A. de C.V.

事業内容	人材紹介、人材派遣事業
認定	労働者派遣事業許可番号:派13-310987 有料職業紹介事業許可番号:13-ユ-309623
公式サイト	https://leverages-medicalcare.jp
お問い合わせ先	レバレッジズ株式会社 広報部 TEL:03-5774-1632 MAIL: pr@leverages.jp

右記のQRコードから
アクセスできます

